Mailed by Sendai High School News

(一)第6號　川内高等學校　昭和24年2月15日(火曜日)

THE SENDAI HIGH SCHOOL

川内高校新聞

発行　鹿児島縣川内高等學校 PTA 文化部
編輯　鹿児島縣川内高等學校新聞部
印刷　鹿児島縣伊集院町郡山八番地　久保印刷所　電話二八番

川高新聞に寄せて（下）

三井・卯之助

(一) 男女平等の人格的教養を受けること。その本には男女共學の學校生活でなければならない。憲法に依つて男女の性の別は認めつゝその人格としては全く平等と定められてゐる。併し現實に於て女性は其の期待に添い、その責任を十分果しているとは言へないのである。この原因は、女性が當然の權利と義務とを實現するの能力に於て十分でない点にある。つまり批判、判斷、責任、を伴ふ實踐の能力に於て男性に比して一般的には低いと云ふ点にあるのである。これを解決する方途は男性の不當な優越感を抹消する一面「どうせ女ですもの」と云ふ女性の側に於ける不必要な卑下感を青少年時代に於て拂拭することが最も大切である。民主々義社會の中堅的指導的人物を養成する新制高校に於て男女を共學せしめ男女は同一の教育さえほどこさせるならば同一の教養を持ち得るものであることを体驗せしめることが封建制から女性を解放する方途である。男女共學を行はない時に於ても起る一部の者の間に風紀問題等の派生的な事項を以て男女共學を尚早とするが如き見解は斬しい高校生の人格を侮辱するものであり且女性を永久に奴隷的地位に釘付しようとする封建的思想の現れである。高校の男女生徒は各々其立場に於て自重し男女共學の正しい姿を世の封建的思想の持ち主に示し生れながらにして平和的な且愛情に充ちた性格の具現者である女性を立派にその使命を果し得る地位につかしめて文化平和國の建設を急速に進展せしめるよう努力せられんことを切望する。

(二) 自學自習の學習態度を確立すること。古い日本の教育は先生の講義をノートしてそれを暗記して答案を書きよい点を取つて學校を卒業すれば學問とは永久に告別すると云う學習態度であつてこれでは日本の文化は向上せず日本の政治經濟教育は相變らず知慧の光あせたものとして殘るであらう。學校にしか學術的研究がない國であつてはならない。そこで學校時代から自らの周圍を眺めて問題を求め自らその解決に努力しその結論を得たら先生の批判を仰ぎ又解決不可能のときに先生の指導と助言を求めると云う自主的學習の慣性を學校時代に植えつけるならば古い日本の教育の悪弊を一掃することに有るのである。

(三) 校内に於ける自治生活の樹立。——自治精神の不明瞭なことが日本に於ける社會的政治的混亂の一大原因をなしてゐる。民主社會の中堅人物たる高校生は學生時代に十分自主的に自治訓練を行うべきである。自由平等友愛の正しい姿を學校生活に實現し公正な多數決原理に依る討議で萬事を決定して行くことの修練が生徒の自主的活動によつて推進されねばならぬ。但し茲に一言注意すべきことは生徒諸君は飽までも教育を受けつゝある未完成な人格の持主であることを十分自覚し恒に大所高所から先生方の指導を受ける態度を忘れてはならぬ。

(四) 健康な青年となること。學校を卒業した青年の死亡率の多いことは日本の大きな悩であつた。青年の死亡率の多いことは、泥溝の中に寶を捨てることに等しい。諸君の兩親達や先輩の負担に於て諸君は教育を受けてゐるのである。諸君が將來成人して國家社會の立派な中堅人物として公共の爲に働いて始めて己の責任を果したことになるのである。そこで諸君は一人〳〵に自己の健康を自分で守る能力を學校時代十分養つて置かねばならない。今までの我が國の學校では、この健康教育はあまり重視されなかつた。生徒自身もあまり健康を守ることは考えず不潔が反つて青年學徒のシンボルであるかの如き錯覚さえあつた。文化國家を担う將來青年は清潔な且規則正しい生活の出來る學徒であつて欲しい。故意の弊衣破帽を誇るか如き學生々活は文化國家日本の名譽のため排撃したいものである。更に國民の全般の健康は個人が自己の健康を守る爲の努力のみに依つて增進するものではない。社會環境が衛生的清潔なものとならねば目的は達成されない。公園や共同便所や其他共同使用される場所が最も不潔であるような國民の衛生思想の現狀では國民の健康の增進が望まれないばかりでなく文化國家を建設することも不可能である。

青年は常に明朗でなければならない。眞の明朗は健康なくしては生れない。健康になるためには各人の体力を各人が良く認識しその体力に應じて强力なる者は進んでスポーツに精進して一層体力を向上させ体力の比較的弱い者はその体力を守る爲に努力するような學生生活を自主的に生み出して貰ひ度いと切に念願する。（縣總務部長）

論說

新らしき『社會苑』

我々が謳ふ現在の自由開化への經路は決して終戰なる偶發的契機のみに依りもたらされたものでなく、熱砂漠のサボテンの强き生命維持力の如く軍閥下にあり鍛えられた逞みなき自由獨立運動者の血が脈搏つ『自由』である。軍閥の糸を引く直系文部省課程の統一に端を發する道義感に訓育された往時の人々が「完成せる個人」の待遇に何の疑問も持たなかつた愚かさを笑へる者があらうか。

この様に統一的强制は時代を斜き行く青年に暗い影を投げるが、中にも眞知を追求して行く者の上に何らの保障、批判を加へる事もなく自己を中心とした利害關係のため目的意志に基く妨害を試みるが如き存在を社會の中流以上のスクラムの中に猶認めざるを得ない事實、或は且つての榮躍をいたづらに懷しみ封建的主体性を回復せんとして學生の學園外團体の八團を强要し、ひいては歐打等の私刑をあえて行ひ他の從屬を强ひる者等。

理由の如何を問はず法網をくぐつて迫りくるファシズムに屈せねばならぬ人間のあることは甚しき社會の缺陷であり啓蒙思潮の滯帶である。

この際學校新聞は直接社會の一端へ連關するものとして、其の輿論推進の公器として文化の正しき啓蒙を阻止せんとする者の活動を阻み、時代の流れの底に滯る不明朗分子の一掃に盡すべきであらう。民主社會は決して首相官邸や役場から配給されるものではなく、これを養ふのは人間の共同生活であり、自治團体であり學園である。强烈なる民主化せる文化社會の向上理念を以て社會悪の根元をつき、文化の過てる美名に隠れた者を刺し、眞の時代の啓蒙者即青年に嚴正なる批判と保障が與へられてこそ新しき『社會苑』の進展が決定されるのである。

即我々は先づ現實社會文化の幸福を追求するものとして、適格なる實行理論に基いて自分の側近からの改革を促し、舊來の因襲に煩れ徒らに他の啓蒙を阻むも如き者への衝撃の强化促進に努め公正な民主文化への目的達成を急ぐべきだ。（鮫島）

新卒業生の動向

出原・文雄

本年四月から發足のはずの新制大學は、その全貌がいまだにはつきりせず、二三日前に鹿児島大學の内容なるものが新聞紙に發表になつたが、これとて正式な文部省の決定でもない。こんなわけで三月の卒業生諸君は何處を受驗したらいいものか、全然目算が立たないで全く困惑の有樣である。本人のみならず父兄の方でも色々と案じて居られるし、直接助言をする立場の私共も困つている次第である。大体この四月から新制大學が發足することは、すでに三年前から決定していることなのに、いよ〳〵せつぱ詰らなければ、足もとに火がつかなければ、動かない文部省のお役所仕事の欠陥が、こゝにもいかんなくばくろされているのである。

今さらお役所仕事の悪口を言つたつて始まらないかも知れないが、非能率慢性症にかゝつて、迷惑するのはいつでも國民ばかりではやりきれない。

こんなわけで、進學方面のことは、今の所何とも申されない、就職方面について簡單に述べると、新卒一六二名中四六名、つまり二八%が就職希望者である。例年ならせいぜい一〇%多くて二〇%という所だが、世間の荒波は例外なく學園にもおし寄せて來て、このような深刻な數字となつて表われている。

この就職希望を色々な角度から眺めて見ると、先づ地域から云えば川内市と薩摩郡内を希望するものが八名、その他の縣内が一八名、他府縣が二〇名である。

他府縣の中で東京の六名が最も多く、大阪の三名がこれに次ぐ。あとは神奈川・兵庫・福岡・宮崎の各一名で、未定が八名である。東京が最も多いのであるが、これは働き乍ら勉强しようという考えの人が殆ど全部といつてもよいので、この事は仲々考えさせられる傾向である。

次に仕事の種類であるが、會計員一二名が最も多く、次は官廳六名、銀行二名、未定二六名となつている。この未定以外の二〇名を見ると、その全部が事務系統を望んでいるのであるが、自らハンマーを振つて、汗と脂にまみれようとする云わば肉体勞働に身を投じようとする希望者のない事がちよつと物足らなく感ぜられる。もちろん從來とてその方面を希望したものは先づ無かつたといつてもよいのだから、本年だけを强く責めるわけには行かないが、新制高校の第一回卒業生の中に一人でもこの方面の希望者を見出し得たならとの感じを抱くのは恐らく私一人ではないであろう。

以上簡單ながら新卒業生の動向についての觀察を終る。

新制大學の入試競爭率は恐らく例年の倍であろうと思われる。尚競爭者の中には既に昨年舊高專に合格した人もある。質量ともに未曾有の難關である。就職競爭もなまやさしいものではない。企業整備で失業者が街に溢れようとしている。

最後に卒業生諸君の輝かしい成功を祈つてこの筆を擱く。（一部教官）

雲水

陽春三月、卒業生の多くがそわ〳〵と花の都へあこがれる。都會とはそんなによいところだろうか。

よしんば宮尾よく上級學校にはいれて在京の樂邁しんだにせよ、まだ〳〵腹の減ることは同合よりたしかにこたえるらしい。

◇諸京の底にリツク一杯つめ込んで行つたところで當座の花。まもなく空腹を抱えて危機に直面する日が必ず來る現實を直視しようではないか。

◇神田あたりには昔ながらに角帽は多いが、その大部分が確かなアルバイトを探すのに血眼になつているという。

◇學校の場のアルバイトがいつのまにか生きんが爲のアルバイトになつて、學徒の悩みは愈々深刻になる。

◇パン助、オカマ、掏摸、掻っぱらい、浮浪兒等が立ちまじる目まぐるしい都會の明暗相に呆れかえつて、或は怒り、或は安價な感傷に沈んでみたところで、誰もが「鍋の嘶る丘」の主人公になれるわけでない。

◇中途にして學業を棄てたら、殘るものは蝕まれた健康と、妙に荒んだ精神だけだろう。

◇「こんど歸る時は川内川です」といつて無理やり上京した卒業生があつた。「學若し成らずんば死んで歸る」という決心らしく、「死すとも歸らず」という、其性上人に比べて如何にも當世向きの挨拶だと面白く思つたが、一ケ月目には憔悴して歸つて來た。

◇「面目なし」と頭を下げたが、「早く歸つたら君にしては賢好だつた」とほめてやる。

◇學問、親類、恩師、意志、學力、健康、學費に於て十分自信ある者は敢然排しべき都會ではあるまいか。各自に於てよく考慮のこと。

◇爭うて紅葉に飛ぶ落